

序

医療における診断には、理学的検査、血液生化学的検査、そして画像診断がありますが、近年の画像診断の進歩によって、その重要性は高まる一方であり、特に確定診断において画像情報は必須となっているといってよいでしょう。疾患によっては、病理診断に影響を与えていたる症例も多々あります。現在、研修医のスーパーローテーションに放射線科は必須になつていませんが、それは画像診断の必要性の低さではなく、研修指定病院でも放射線科医のいる施設が限られているため、もしくはいたとしても十分なスタッフ数がないため、十分な研修を受けることができない状態であるためといえます。

本書は、研修医や専攻医の若手の先生がCT画像をみるにあたって、上級医に質問したくなるような内容を“Q”として質問形式で挙げ、それに対する答えを“A”として端的に示すとともに、その詳しい解説を2～4ページ程度と、その場で読んでしまえる分量で記載する形式をとるようにしました。若手の先生が読影時に持った疑問を積み残さず、理解しながら画像診断の基本を身につけることができるように工夫しました。全身のCT診断領域を含んでいるので、各診療科をまわっている研修医や専門医試験を目指している専攻医はもちろん、放射線科専門医でも自分の専門分野以外のところの復習に利用できると期待しています。

本書を作成するにあたって、当科の神田知紀講師を中心に医局スタッフの先生や神戸大学の関連施設の先生にも各専門領域を中心に執筆をお願いしました。日々の業務で多忙を極める中、本当に感謝しています。本書を通して、若手の先生方が放射線診断への造詣を深めてくれることを期待しています。

2023年8月

神戸大学大学院医学研究科放射線医学分野 教授 **村上 卓道**

序

「画像診断を勉強し始めた学生・研修医向けにわかりやすいCTの本を」ということで、本書の企画・編集を担当させていただきました。企画段階では「最新のCT技術もふんだんに入れて」ということでしたが、ほとんどの学生・研修医はCT技術に対して興味は少ないので、技術系の話を少なめに、画像診断をたっぷりにしています。

本書のコンセプトは「広く・浅く・ビギナーにやさしく・1冊で日常診療をカバーできるように」を第一に制作されており、とにかくこれだけは覚えておいて欲しい！100点はいらんから70点の知識を！という方針で企画しています。各分野の専門家の先生からみたら物足りない、ちょっと違うと思うところもあるかもしれません、まずは研修医の先生にわかりやすく理解してもらうためにということで、大目にみていただけたら幸いです。

本書はQ&A方式で展開されていますが、①正常解剖、②症状から画像をどう判断するか、③画像所見からの鑑別、④正常変異と判断してよい病変、を中心にまとめられています。広い分野を扱った分、一つひとつの大病の解説はとても薄くなっていますが、もっと知りたいと思ったら是非インターネットや専門書を参考して勉強してください。勉強しても勉強しても追いつかない画像診断の深淵が待ち構えていますよ。

最後に、忙しい中、本書の作成を協力していた分担著者の先生方と、めんどうな要求に付き合ってくださったGakkenの方々、ご協力本当にありがとうございました。本書が無事刊行にこぎ着けられたことに感謝しています。この本を読んで少しでも画像診断がわかるようになったと思える人が増えることを祈願して。

2023年8月

神田 知紀(@tkandarad*)

* X(旧Twitter)アカウント